

沢目宣子Lスピーチ感想文 L河野信之

平成26年9月3日(水) 東京白門ライオンズクラブ 9月度第一例会にて

水津会長ご提案のライオンズメンバースピーチ、「皆さん、堅苦しいスピーチでなくて結構です。自己紹介でよいのです、10分程度でよいのです、気楽にお話してください」。実に素晴らしい一言。何かしらの「演題」に沿った講演なんかよりずっと面白い。ただでさえ自伝ものが好きな私にとって例会の楽しみが一つ増えた。

「昭和40年、商学部卒業の沢目でございます。自身のことを語るために15分間のお時間を頂きましたことを感謝いたします。」この一言に沢目Lのお人柄が全て凝縮されていると思いました。ライオンズはもとより、南甲倶楽部でも何かとお世話になっているのですが、沢目Lは奥ゆかしくて決しておごることがない、そして余計なことと言わない。さぞかし何の問題もないお姫様のような生活環境で育たれたのだらうと思っていました。しかし、お話を伺うと、陸軍大尉のご実父様はご自身が2歳の時フィリッピンで戦死、それからお母様が陸軍少尉様とご再婚、多感な時を養父様のご実家、福島県の会津で厳しく育てられたと聞きビックリ。こういう場合、横や後ろに向かって歩きはじめる人間が多々いる中で、沢目Lは決して経済的に豊かでもない養父様を尊敬し、養父様の教え通りに道を歩んできたとのこと。その結果、大学1年生の時の成績は全て優。ある程度恵まれて育った(と思っている)私の成績は優がぽつぽつ。人間の器の違いを感じざるを得ませんでした。

そんな沢目Lなので、ご卒業後は多摩地区を中心に仕事は勿論、母校中央大学の為にも色々なところでご活躍されています。スピーチの最後に「様々な機会に恵まれ、素晴らしい方々との出会いのおかげで今ここに居ることができます。このことを改めて感謝いたします。ありがとうございました。」としめくくられ、最後まで素敵な沢目Lでした。

沢目Lへの尊敬の念は募るばかりですが、沢目Lのようなお方が多数おられる東京白門ライオンズの一員にさせて頂いている私はたいへん幸せ者だと思います。感謝。